

令和3年度の取組の概要

| | | | | |
|---------|---|--------|------|---------|
| 学 校 名 | 大河原町立大河原小学校 | 主な取組教科 | 算数 | |
| 研 究 主 題 | 深い学びを実現する算数科授業 —数学的な見方・考え方を働かせた対話的な学びを通して— | | 研究年次 | 2 / 3年次 |

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

| 学力向上の取組 | 成 果 | 評価の根拠 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方・考え方を働かせることに着目した教材研究を進めると同時に、問い返しによって、「分からない子」が活躍できる授業づくりを心掛けてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考えを説明しようとする姿が多く見られるようになった。 ・教員の授業に臨む姿勢が変わった。特に問い返しをし、児童に説明をさせて学びを深めようとする意識が高まった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象に6月、12月に実施した算数の意識調査の結果から、「算数の授業中に自分の考えを説明する時間がある」と答えた児童が多く、の学年で増えている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上会議を行い、経験年数の近い教員同士で学力向上の具体的な手立てを話し合い、学年で共通した指導につなげられるようにした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通じて手立てを考えたことで、それぞれの教員が具体的なイメージをもって指導に当たることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年の教員が共通の指導をすることで、学級間で大きな差を生むことなく指導を続ける様子が見られた。 |

2 残された課題・要因と今後の方向性

| 課題・要因 | 今後の方向性 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題は、深い学びを通して思考力、判断力、表現力等を身に付けさせていくことである。その要因としては、1年目に目指す児童の姿に向かって研究を進めたものの、まずは授業を改善する必要があると考え、2年目の主題として目指す授業の姿を設定した。2年目の研究を通して、学校全体として理想の授業像を共有できたことから、3年目は児童に力が付いたかという本題に迫りたいと考えたからである。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年目の研究を通して得られた授業の留意点、共有してきたイメージを、研究の手立てに位置付け、その上で、思考力、判断力、表現力等の力が高まっているかを見取することに重点を置いた研究を進めていく。 ・新年度は異動もあるため、授業のイメージや学校としての約束事を共通理解することが改めて課題となる。4月、5月の早い段階でイメージを共有し、研究主題に迫りたい。 |

◆大河原町立大河原学校 研究関連 URL : <https://sites.google.com/gs.myswan.ed.jp/daisy>